



## オンライン 読書会レポート

各地のまちライブラリーが休館となっていた5月～6月中も「本で人とつながる」活動のできるかたちで実施しているライブラリーがありました。今回はその様子をお届けします。各館の開館状況はHPで確認してからお出かけください。  
まちライブラリー HP <https://machi-library.org/>

### まちライブラリーオンラインお茶会

まちライブラリー@もりのみやキューズモール

「もりのふらっとカフェ」としておすすめの本を紹介し、お茶を飲みながら楽しくおしゃべりしていたイベントを、休館中はオンラインで4月は4回、また5月からはもりのみやの会員ではない方にも気軽に参加していただけるように「まちライブラリーオンラインお茶会」として4回、合計8回開催しました。紹介された本は44冊、延べ参加者数は41人。遠方からの参加、ご自宅の本棚紹介など、オンラインならではの良さも発見できました。(川上)

5/21から再開し、季節のコーナー展示も



### オンライン読書会

まちライブラリー@らぽーと湘南平塚

5/31(日)と6/17(水)の2回、FBを通じて参加を募り、オンライン読書会を行い、それぞれ4人、5人が参加しました。6月は、近隣にお住まいのまちライブラリー会員ではない方もおすすめの本を片手に初参加！みんなで紹介する本にそれぞれ質問したり、突っ込みを入れたりしながら盛り上がりました。(野村)



オンライン読書会

### 絵本を紹介しあう読書会

まちライブラリー@南町田グランベリーパーク

4/30(木)、5名で開催。アイスブレイクでは、24時間以内に起きた良かった出来事と共に絵本を紹介。親子2組、絵本セラピスト2名と共に新たな絵本に出会えました。大阪からの参加もあり、オンラインならではの読書会となりました。

●今後のイベント予定

7/15(水)11:00~12:00 Zoomで「大人のためのミニ絵本セラピー®」を体験しよう♪

7/4(土)、8/6(木)、9/6(日)13:00~14:00「読書会」を主催しよう!(読書会主催者養成講座・状況によりオンライン開催)この他にも、読み聞かせも随時実施中。(金城)



読み聞かせ風景

## New! まちライブラリーの紹介

外出自粛期間中にも新たなまちライブラリーが各地に誕生しています。小さな一歩を踏み出したオーナーさんたちのメッセージと共にご紹介いたします。ぜひ、足を運んでみてくださいね。まちライブラリー HP内「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。(NO. は登録番号です)

### NO. 780 まちライブラリー@coldmountainstudy (長野 南相木村)

山の中の小さなセルフビルド・ライブラリー@coldmountainstudyです。村とつながりのある漫画家・矢口高雄作品から派生して自然・旅・暮らしの本を軸に選書してお待ちしています。

・Facebook: <https://www.facebook.com/coldmountainstudy/>

・オーナー: 鳥越将路



### NO. 778 まちライブラリー 道草 (愛知 みよし)

今まで読んできた本を並べて自宅の2階で始めました。学生の頃に学んだ本、子育て中に助けてもらった本、子どもと一緒に楽しんだ絵本、これからの生き方を学んだ本、どきどき、じんとしながら入り込んだ物語の世界。本との出会い、人との出会いを紡ぎたい。読んでみたい本があれば軽トラに積んでお届けもします(お近くの方のみ)。開館日はFacebook(現在準備中)でお知らせします。

・オーナー: 安田美由紀



### NO. 779 まちライブラリー@あおぞら図書館 (神奈川 相模原)

5年程前にアメリカのLittle Free Libraryを知り、それをきっかけにまちライブラリーに出会い、今は南町田のまちライブラリーでスタッフをしています。自宅の庭先で小さな図書館「あおぞら図書館」をオープンしました。絵本や児童書などファンタジーものが多いです。ミツロウを使ったキャンドルやエコラップ作りイベントもできます。遊びに来てくれると嬉しいです。開館は不定期ですがどうぞよろしくお願ひします。

・Facebook: 霧生美奈子 ・オーナー: 霧生美奈子



### NO. 781 まちライブラリー@旅する図書館 浩吉カフェ。(東京 文京区)

まちライブラリーの本を手で一りで本との時間を楽しんだり、多様な人が出会い交流する場を創っていきたくと思います。安心素材の手作りケーキや「お家ごはん」をテーマにしたお食事、美味しいお酒・ワインもご堪能下さい。(ディナータイムは要予約)

・Facebook: <https://www.facebook.com/tlibraryhirokichicafe/>

・オーナー: 小野日南子



### NO. 782 『はるのうた』まちライブラリー (兵庫 芦屋)

6/2にオープンしたギャラリーカフェを、本や人との出会いの場にしたいと、まちライブラリーに参加させていただきました。カウンターには、以前勤務していた図書館で譲り受けた、目録カードボックスを組み込んであります。今後ワークショップなどで出会いとつながりの場にしていきますので、よろしくお願ひします。

・Facebook: <https://www.facebook.com/yhtkei>

・オーナー: 八幡圭子



## まちライブラリーを始めるには…

まちライブラリーは誰にでも始められます。ライブラリー開設をご希望の方は、まちライブラリーがお手伝いします。HP内「まちライブラリーを作ろう!」からお気軽にお問い合わせください。 <https://machi-library.org/howto/>

## お知らせ

まちライブラリー  
関連書籍をHPで  
販売中

まちライブラリーの始まりに関する書籍や全国で運営しているオーナーさんのインタビューを掲載した冊子など、HP内「まちライブラリーストア」にて販売中です。

## 夏に練る計画

**今**年の夏は、暑い夏になるという予報もあります。新型コロナウイルスの不安の中、猛暑の夏とはなかなか苦しい日々となりそうです。

そんな中、夏に向けていろいろな活動を計画している方もおられると思いますが、私もいくつかの構想を計画しています。

一つ目は、4月から5月に予定していた「まちライブラリー・ブックフェスタ in 関西 2020」を9月から10月にかけてオンラインを取り入れた形で実施する計画です。ブックフェスタは、2015年から関西地区を中心に開始した本にまつわるイベントです。まちライブラリー、公共図書館、書店の方々にお声がけし、地区内約300カ所と共に一ヵ月にわたり開催してきました。

2020年版は、「まちライブラリー・ブックフェスタ with online」としてオープニングイベント、マイクロ・ライブラリーサミットをはじめ大幅にオンライン化を図ろうと計画を進めております。本来なら人と人が直接出会う貴重な機会ですが、この時節柄なかなか大規模に集まるのは困難であると考えてのことです。

小規模なつながりと、ネットワークの力を併せてなんとか乗り切ろうというものですが、決して後ろ向きな対処ではないと考えています。人

の温もりや熱意を直接感じられないというデメリットもありますが、距離を越えて出会えるというメリットもあります。

また物理的な制約で関西地区を中心にして進めてきましたが、この機会に全国にその輪を広げていければと考えています。

本を通して人と出会い、未知の地域の人とも触れ合うという「まちライブラリー・ブックフェスタ」の原点に立ち返り、新しい方法を交えて挑戦してみたいと思います。

オンラインでの連携をご希望の方がいらっしゃいましたらぜひ、私まで連絡ください。楽しみにしております。

二つ目は、「ブック・ツーリズム」を勉強することです。

「ツーリズム」という言葉は「観光」とほぼ同義語ですが、近年では、体験や交流といった広い意味を含む「ニュー・ツーリズム」という考え方も生まれています。また「グローバル・ツーリズム」という言葉が示すように、世界中の人たちが多くの国を訪問しあうこともあたりまえの時代になりました。しかし、コロナの影響によりこのような「グローバル・ツーリズム」は世界的に大きな打撃を受けています。

一方、これとは対極にある「コミュニティ・ツーリズム」という地域コミュニティ内部から生

じる自律的なツーリズムが大事であるという指摘も出てきています。前者の「グローバル・ツーリズム」が非日常の世界を主体にしているとするならば、後者は日常の世界から生まれる「ツーリズム」ともいえます。また、特に「コミュニティ・ツーリズム」は、地域に根差した自生的な活性化や再生を目指していると言われていました。

そういう意味では、まちライブラリーは、まさに「コミュニティ・ツーリズム」とも言え、「まちライブラリー・ブックフェスタ」は「ブック・ツーリズム」を具現化する手段と位置付けることができます。生活する人が楽しく、活き活きとすることが大事で、そうした日常性を作り出すことが地域づくり、地域再生にもつながると思います。

三つ目は、「まちライブラリー」として「新しい本屋」に挑戦してみたいと考えています。奥多摩では、既に「まちライブラリー@奥多摩ブックフィールド」と称して、廃校になった小学校の職員室に、美術書の愛好家が集めた図録や、ドイツ文学の専門家が遺した本を配架しています。そのメンバーの一人が、東京都最西端の本屋と銘打って蔵書の一部を無人販売していたり、下北沢には本箱を借りて一箱本屋ができる場所があり、そこで本を売ったりもしていました。もりのみやのまちライブラリーでは、一箱古本

市などを開催してまちライブラリーの仲間が本を売ることも実践してきました。「売る」と「貸す」、確かに違いはありますが、どちらも本を通して人のつながりや、自ら考えていることや感じていることを共有したいという気持ちを大切にすることで共通しているのではないのでしょうか。

私は、本を書き、本を読み、本を買い、本を借りるということに共通するのは、誰かに何かを書き残し伝えたい、届けたい、受けとめたいという思いだと考えます。その社会的な流れは長い年月をかけてできてきましたが、従来の本を作る、売る、貸すという社会的な仕組みをもっと自由に発想しても良いのではと考えるようになってきました。この挑戦は、夏の夜の夢として終わるかもしれません。それでも、私たちの生活を楽しく、豊かにするためのささやかな挑戦として頑張って構想を練ってみたいと思います。

夏の暑い夜長、虫の声を聞く代わりに皆さんの「夏に練る計画」をお聞かせいただければと思います。

2020年7月

まちライブラリー提唱者 磯井純充  
連絡先メール：MSJ00657@nifty.com